

平成27年度事業報告

I 基本方針（基本理念の実現に向けて）

東日本大震災・原発事故から5年目を迎えた平成27年度は、震災・事故の影響からの脱却を目指し、新たな時代に向けた福島県ならではの「森林との共生」を積極的かつ具体的な提案を行う年と位置付け、各種の事業を展開した。

森林の中で自然との共生を学び、体験し、様々な形で森林とふれあうライフ・スタイルを創出するフォレスト・エコ・ライフの推進を図り「自然との共生」思想を普及することを基本とし、福島から全国へ、「福島県ならではの、ふくしま県民の森ならではの」のサービスや情報の発信に取り組んだ。

また、地域活性化の向上に寄与することを目的とした各種事業、及び森林の利活用を促進することを目的とする事業を展開し、指定管理者となっている「ふくしま県民の森」を舞台に、従来にも増して利用者に楽しんでもらえる運営、効率的な業務執行及び質の高いサービスの提供に努めた。

さらに、平成30年に福島県で開催される「第69回全国植樹祭」のサテライト会場に「ふくしま県民の森」が選定され、福島県や関係機関・団体等で構成する実行委員会に参画するとともに、サテライト会場の在り方等について検討を行った。

II 指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響について、施設内の空間線量の定期的な測定と正確な情報提供を行い、利用者等の信頼確保に努めた。

また、県内外の様々な組織、機関等と連携し、「ふくしま県民の森」の利用者の増加につながる事業を実施するとともに、「ふくしま県民の森」利用者の満足度を高めるような施設整備に努め、森林での楽しみ方、森林の学び方などをサポートするプログラムや情報の提供を行った。

1 県委託料による施設・緑地管理

(1) 施設の高規格化、老朽化等への対応

ビジターセンター（ボイラー設備修繕、露天風呂温度調節設備修繕、監視設備修繕）

コテージ（機械警備設備修繕、防蟻処理、窓修繕）

常設トレーラー（暖房設備修繕）

テントサイト等（野外テーブル修繕、遊歩道木部修繕、雪損木伐採）

森林学習施設区域（電気設備修繕、遊歩道修繕）

(2) 利用者の安全確保の対応

大型野生動物(ツキノワグマ、イノシシ)対策のための森林下層木の伐採、電気柵設置

(3) その他

施設管理用機械修繕、木質チップボイラー設備の適正運用・点検

2 オートキャンプ場利用料金による施設管理

(1) 施設の高規格化、老朽化等への対応

ビジターセンター (ロビー床修繕、浴室建具修繕、浴室サウナ設備修繕、売店冷凍庫修繕)

コテージ (窓・テラス修繕、暖房設備修繕)

常設トレーラー (暖房設備・空調設備等修繕)

テントサイト等 (サテライトハウス給湯設備等修繕)

(2) 利用者の安全確保の対応

大型野生動物 (ツキノワグマ、イノシシ) 対策調査、動物駆逐用煙火整備、電気柵設置

3 フォレスト・エコ・ライフ推進の事業

[平成26・27年度の目標値は財団中長期計画(平成25年8月策定)による。基準年平成22年]

(1) 森林学習施設区域の運営

森林学習施設区域での学校等による森林学習の利用は、震災後、県民の森の空間線量の低下や学校教育における野外活動休止の見直しなどにより、県内の学校利用は徐々に増加傾向にあるが、財団中長期計画の目標には届いていない。なお、震災等に伴う飲料水等の取水量減少によるユースキャンプ場炊事棟や野外トイレの利用制限は解除した。

森林学習施設区域全体の利用者数

(単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率(実績/目標値)
平成22年度	基準年	174,400	158,433	90.8%
平成26年度	前年度	15,800	13,732	86.9%
平成27年度	当年度	31,600	14,378	45.5%

森林館の利用者数

(単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率(実績/目標値)
平成22年度	基準年	12,180	12,792	105.0%
平成26年度	前年度	3,400	3,565	104.9%
平成27年度	当年度	4,300	3,373	78.4%

学校・団体利用者数

(単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	基 準 年	7,780	10,353	133.1%
平成 26 年度	前 年 度	3,700	5,384	145.5%
平成 27 年度	当 年 度	4,100	5,417	132.1%

(2) オートキャンプ場の運営

オートキャンプ場の利用については、大震災と原発事故による大幅な利用減少は着実に回復してきており、財団中長期計画の基準年である平成22年度と比較すると、利用サイト数、利用者数ともに90%台まで回復し、利用者数は、当年度の目標を達成するとともに、温泉目的利用を含む施設利用者数は、基準年を上回る利用を確保することができた。

これは、利用者の放射能に関する理解が進み、野外活動の重要性が再認識されていると考えられること、継続実施している学校教育割引などによる利用者増の対策が功を奏していると思われる。さらに、日帰り温泉利用について、温泉自体の効能が広く理解されていることとともに、新たに法人向けの温泉施設利用契約に取り組んだ結果、過去の利用実績を大きく超える実績を確保することができた。

しかし、季節ごとの利用状況をみると、大型連休であったゴールデンウィーク（5月）やシルバーウィーク（9月）については相当の利用実績があったが、最も繁忙となる夏休み期間については、基準年の66%程度にとどまっており、さらなる利用者増の取組が必要である。

ア オートキャンプ場利用サイト数（コテージ・常設トレーラー・テントサイト合計）

年 度	区 分	実 績	基準年との比較
平成 22 年度	基 準 年	7,910	—
平成 26 年度	前 年 度	6,910	87.4%
平成 27 年度	当 年 度	7,144	90.3%

イ オートキャンプ場利用者数(料金対象外の幼児を除く)

(単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	基 準 年	32,650	29,241	89.6%
平成 26 年度	前 年 度	24,800	26,199	105.6%
平成 27 年度	当 年 度	26,300	27,258	103.6%

ウ 温泉施設の利用者

(単位；人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	基 準 年	14,330	11,683	81.5%
平成 26 年度	前 年 度	13,500	13,424	99.4%
平成 27 年度	当 年 度	13,600	15,439	113.5%

オートキャンプ場利用収入（温泉利用収入を含む）は、前年度比 111% となり、施設利用は着実に増加していることが鮮明となった。また、財団中長期計画の基準年度である平成 22 年度と比較しても 110.6% となり、オートキャンプに関しては震災や原発事故の影響からは脱却しつつあると思われる。

エ オートキャンプ場利用収入（消費税含む）

(単位；千円)

年 度	区 分	収 入 額	基準年との比較
平成 22 年度	基 準 年	71,029	—
平成 26 年度	前 年 度	70,683	99.5%
平成 27 年度	当 年 度	78,527	110.6%

※ 収入には温泉利用収入を含む

財団が主催するイベントプログラムへの参加は、前年度と違い比較的天候に恵まれたこともあり、実施回数も増えたことから、参加者数も相当の伸びがあった。

なお、風評被害にかかる営業損失について、東京電力より損害賠償金として受け入れた。

オ イベントプログラムの実施

年 度	区 分	実 績 (人)	実施回数 (回)
平成 22 年度	基 準 年	6,643	289
平成 26 年度	前 年 度	3,161	242
平成 27 年度	当 年 度	5,179	291

Ⅲ 受託事業の実施

1 もりの案内人養成講座運營業務

- (1) 委 託 者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成 27 年 5 月 19 日～平成 28 年 3 月 11 日
- (3) 実施内容 福島県が募集し、選定した受講生 18 名（新規 11 名＋継続 7 名）を対象に、5 期 15 日間の講座を開催、運営した。

- 第1期；平成27年6月19日～21日
- 第2期；平成27年7月10日～12日
- 第3期；平成27年9月25日～27日
- 第4期；平成27年11月13日～15日
- 第5期；平成28年1月15日～17日

財団スタッフは、講座運営のほか5教科の講師を勤めた。

2 森林ボランティアサポートセンター開設業務

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日
- (3) 実施内容 学校や幼稚園などの教育機関や子ども会などの団体からの依頼を受け、NPO法人福島県もりの案内人の会などへの講師派遣要請を行った。

また、ホームページを運用し、情報の提供を行うとともに、企業や森林ボランティア団体などの活動状況を取材し、森林づくり情報誌（森ボラ新聞）を発行した。

さらに、電話、来訪者、FAX、メールによる各種相談対応や森林ボランティア活動に必要とされる機材（ヘルメットなど）の貸出を行った。

それぞれの実績は下表のとおりである。

年 度	区 分	ホームページ 閲覧件数	森林整備道具 貸出件数	指導者要請 依頼件数
平成22年度	基準年	45,517	20	71
平成26年度	前年度	77,447	12	72
平成27年度	当年度	85,332	15	59

3 鳥獣保護センター管理受託事業

- (1) 委託者 福島県（生活環境部自然保護課）
- (2) 実施期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日
- (3) 実施内容 野生傷病鳥獣の救護活動

救護実績

(単位；頭・羽)

年 度	当該年度末 飼育数	当該年度収容数	当該年度 野生復帰数	当該年度死亡数
平成22年度	102	270	83	196
平成26年度	64	169	50	124
平成27年度	72	166	55	103

4 福島県の森林文化公開体験事業

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林計画課）
- (2) 実施期間 平成27年8月15日～平成27年12月20日
- (3) 実施内容 フォレストパークあだたらや大玉村村内を会場として、季節ごとに森林文化体験プログラムを実施した。

ア 夏の体験活動

- ① テーマ 「森林に学び・遊ぶ。」 ～森の素材で楽器作り♪～
期 日 平成27年8月15日～21日
内 容 シノダケやツバキの実、ササの葉などを材料とした笛作り
参加者数 210名
- ② テーマ 「森林に学び・遊ぶ。」 ～キャベツもちを作ろう～
期 日 平成27年8月16日
内 容 県中地域の里山（郡山市逢瀬町）の郷土料理である「キャベツ餅」を作り、食を通じた森林のある暮らしの体験
参加者数 58名

イ 秋の体験活動

- ① テーマ 「森林に働き、守る。」 ～イグネと人々の暮らし～
期 日 平成27年11月8日
内 容 イグネ(屋敷林)を中心とする森林と人や自然との関わりに関する講演、及び大玉村内のイグネの視察と整備体験
参加者数 9名

ウ 冬の体験活動

- ① テーマ 「森林の恵み・木づかい」 ～森林の恵み炭を焼く～
期 日 平成27年12月19日～20日
内 容 講師を招いて炭焼きを行うとともに、炭焼きに適した里山の自然観察と切り出した木材を活用した木工クラフト
参加者数 45名

5 森林ボランティアリーダー育成事業

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成27年8月11日～12月4日
- (3) 実施内容 森林整備に関する知識と技術・森林整備の安全確保に関する知識を備えた森林整備ボランティアの核となる「森林ボランティアリーダー」を養成する講座。
福島県が募集し応募した5名が受講。
救急救命法の講習（10月14日 フォレストパークあだたら）
林業機械の講習（刈払機；10月15日、チェーンソー；10月22日～2

3日、福島空港公園緑のスポーツエリア)

森林づくり講習会(10月26日～27日 フォレストパークあだたら)

6 地域産品を活かした誘客促進事業

(1) 委託者 福島県(県北地方振興局)

(2) 実施期間 平成28年1月22日～3月31日

(3) 実施内容 フォレストパークあだたらの宿泊利用者(グループ単位)にアンケート調査を行い、回答者に対しては県北地方の地域産品を贈呈した。アンケート調査の結果については、委託者に提供するとともに、当財団としても今後の施設運営のための資料として活用する。

・アンケート回収 270組

IV 自主事業の実施

1 環境教育事業

(1) 青少年向け環境教育事業

① あだたら生物クラブ

実施日;平成27年5月31日 参加者;11名

平成27年10月31日 参加者;14名

主催;NPO法人わかば自然楽校、福島市小鳥の森、

(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

実施場所;ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

② 子ども樹木博士認定事業

実施日;平成27年8月22日～23日 参加者;11名

主催;(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

協賛;(一財)福島県林業会館

協力;NPO法人福島県もりの案内人の会

実施場所;ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

(2) 災害対応キャンプ普及事業

① 事業名;災害対応キャンプ指導者研修会

実施日;平成27年4月25日

参加者;31名

主催;(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

共催;NPO法人福島学グローバルネットワーク

協力;福島県キャンプ協会

- 実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
- ② 事業名；災害対応キャンププログラム（千葉県旭市立第二中学校）
実施日；平成27年5月19日
参加者；275名
主催；NPO法人福島学グローバルネットワーク
共催；(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
協力；福島県キャンプ協会、日本赤十字社、安達地方広域行政組合
実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
- ③ 事業名；災害対応キャンププログラム 中～高校生対象事業
実施日；平成27年9月5日～6日
参加者；38名
主催；NPO法人福島学グローバルネットワーク
共催；(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
協力；福島県キャンプ協会
実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
- ④ 事業名；災害対応キャンププログラム 中～高校生対象事業
実施日；平成27年11月21日～22日
参加者；13名
主催；NPO法人福島学グローバルネットワーク
共催；(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
協力；福島県キャンプ協会
実施場所；ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

(3) 森林保全推進事業

- ① うつくしま21森林づくりネットワーク（事務局引受け）
ネットワーク総会開催 平成27年4月22日（会場；フォレストパークあだたら）
森林と市民を結ぶ全国の集い 平成27年6月12日～14日
（会場；フォレストパークあだたら他）
第1回検討会開催 平成27年12月18日（会場；フォレストパークあだたら）
森林づくり活動発表交流会 平成27年2月7日～8日（会場；いわき市）
第2回検討会開催 平成28年3月17日（会場；フォレストパークあだたら）
- ② ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会（事務局引受け）
事業説明会 平成27年4月22日（会場；フォレストパークあだたら）
総会開催 平成27年5月18日（会場；フォレストパークあだたら）
臨時総会開催 平成28年3月23日（会場；フォレストパークあだたら）
- ③ 森林・林業関連委員会等への出席
ふくしま森づくり大賞審査委員会 平成27年5月21日（会場；福島市）

全国植樹祭福島県実行委員会 平成27年6月5日(会場;福島市)
平成27年度林業関係表彰式 平成27年10月17日(会場;郡山市)
ふくしま復興未来の森づくり基金委員会 平成27年10月22日(会場;福島市)
第13回うつくしま育樹祭 平成27年11月7日(会場;いわき市)
第69回全国植樹祭福島県実行委員会総会 平成27年11月24日(会場;福島市)
第69回全国植樹祭専門委員会 平成27年12月3日(会場;福島市)
ふくしまの森復興会議現地視察 平成28年1月29日(会場;いわき市)
森林文化フォーラム 平成28年2月6日(会場;郡山市)
森林文化調査事業検討会 平成28年3月11日(会場;福島市)

(4) 福島県の森林再生に向けた取り組み

- ① 福島県が設置した「木質チップボイラー」の適切かつ効果的な運用を確立するため、関係機関と連携して、安定的に利用できる良質な木質チップの確保に努めるとともに、導入を検討する機関の視察受入を行った。
- ② 福島県内の森林ボランティア団体を支援するため、「うつくしま21森林づくりネットワーク」及び「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」の福島県事務局を引き受けた。(再掲)

(5) 植樹緑化事業

平成26年度まで行ったサクラ植栽事業の適切な管理を行うため、除草等の維持管理を行った。

(6) 講師派遣事業

- ① 奥会津大学基調講演
実施日;平成27年10月4日
主 催;奥会津大学
実施場所;昭和村公民館(大沼郡昭和村)
発表者;常務理事 弦間一郎

2 調査・研究事業 「自然環境基礎調査事業 ふくしま生きもの調査発表会」

実施日;平成27年12月12日
主 催;(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
実施場所;フォレストパークあだたら レクチャーホール
内 容;福島大学共生システム理工学類研究生他による研究成果発表会
参加者数;43名

3 物品販売・貸付・カフェ事業

オートキャンプ場利用者や温泉利用者の増加、また、当施設としては初めてとなる結婚式の利用などもあり、すべての事業において、前年度はもとより基準年である平成22年度と比較しても増収となった。

事業収入（消費税を含む）

（単位；千円）

年 度	区 分	ショップ売上 (物品販売)	カフェ売上	物 品 貸 付
平成22年度	基 準 年	11,121	2,269	2,098
平成26年度	前 年 度	10,904	2,473	2,225
平成27年度	当 年 度	12,361	3,151	2,468

4 FEL制度事業

震災等により会員の新規登録及び更新が大きく落ち込んだが、平成27年度は823名の新規登録と更新があり、前年度より144名増加し121%の伸びとなり、基準年である平成22年度との比較では人数は240名及ばないものの、77%まで回復している。

新規登録及び更新の人数

（単位；人）

年 度	区 分	登 録 者 数	基準年との比較
平成22年度	基 準 年	1,063	—
平成26年度	前 年 度	679	63.9%
平成27年度	当 年 度	823	77.4%

5 地域振興と社会貢献事業

(1) 地域振興

① 授産施設支援

ビジターセンター ショップ等における県内授産施設製品の販売

② 地場製品の販売促進

農産物を中心とした地元製品の販売、地元食材等の紹介、活用

③ 教育旅行推進委員会への参加

県外からの教育旅行誘致を目的とした（公財）福島県観光交流物産協会主催の事業

(2) 社会貢献

① 教員研修受入

ア 福島県立大笹生養護学校（教諭1名 平成27年7月27日～28日）

イ 大玉村立玉井幼稚園（教諭1名 平成27年7月28日）

② 職場体験事業受入

福島県立二本松工業高等学校（生徒3名 平成27年9月1日～3日）

(3) 平成27年度学校教育利用割引

年間を通し、フォレストパークあだたらオートキャンプ場利用者に対する財団独自の割引を行った。

・学校教育利用割引率 50%

(4) 仮設住宅避難者への温泉無料提供

大玉村にある仮設住宅や借上げ住宅に居住する避難者を対象として、8月と1月を除く毎月1回、フォレストパークあだたら温泉の無料提供を行った。

・利用者数 186名

(5) 復興支援事業・イベントなどの開催、共催

① 大玉村社会福祉協議会との共催

カメラ教室の開催：平成27年4月24日、10月23日（ふくしま県民の森）

灯明点灯式の開催：平成27年8月11日（ビジターセンター ロビー）

(6) キッズスペース開設、提供（ビジターセンター レクチャーホール 通年）

平成27年度は、新たに12月16日に北海道が進めている「きぼう（木棒）のプール」の受入を行い、利用者に開放した。